



中高生のための英語×探究  
プレゼンコンテスト  
第5回

**Change Maker Awards (CMA)**  
**開催概要**

**全国大会：2023年2月19日（日）**

**開催場所：東京国際交流館 プラザ平成**

一般社団法人英語4技能・探究学習推進協会  
CMA実行委員会

・2022年10月31日更新

※内容を変更する可能性がありますので予めご了承ください。

# 中高生のための英語 × 探究 プレゼンテーションコンテスト

第5回

# cma!

Change Maker Awards

## 英語 4 技能 × 探究

**日時** 2023年 2月 19日(日)

**場所** 東京国際交流館 プラザ平成

〒135-0064 東京都江東区青海 2丁目 2-1

・新交通ゆりかもめ「東京国際クルーズターミナル」 駅東口 徒歩 3分

・新交通ゆりかもめ「テレコムセンター」 駅北口 徒歩 7分

・東京臨海高速鉄道りんかい線「東京テレポート」 駅 徒歩 15分

## スケジュール

- 2022年 7月 プレエントリー受付開始
- 2022年 11月 本エントリー受付開始
- 2022年 12月 地方ブロック予選開催
- 2023年 1月 地方ブロック決勝開催
- 2023年 2月 全国大会開催

# 出場者募集 !!

詳細は Web サイトをご覧ください

<https://esibla.or.jp/change-maker-awards/>

CMA コンテスト

検索



お問い合わせ

TEL 03-4405-3630

E-mail [info@esibla.or.jp](mailto:info@esibla.or.jp)

主催



一般社団法人  
英語4技能・探究学習推進協会  
English four Skills and Inquiry-based learning association

cma!

# Go! Do! Be!

《Change Maker》とは、すなわち「Go ! Do ! Be ! 」の3要素を体現する人物のことです。

果敢に前進(go)、実施(do)、そして実現(be)するような人。  
本コンテストでは、このような人を応援します。

インターネットで世界中につながる便利な世の中だからこそ、そんな世の中を先頭切って導いていく人物が求められています。

明るいうでいて混迷を極めるようでもある今の社会。  
その中で自ら道を切り開き行動できる人材を応援したいと思っています。

Change Maker Awards (CMA) は、中高生のための英語プレゼンテーションコンテストです。生徒は、自分が夢中になっている「探究」について英語でプレゼンテーションを行い、競い合います。

前回の第4回CMAでは、延べ409校のエントリーがありました。

予選と全国大会の審査では、英語力が2割、探究学習の内容が8割を占めます。CMAは、自分が探究しているモノ/コトのインパクトを信じている方、それらを世界へ発信しようとする方が競い合う場です。



CMA本選受賞者、および本選出場者には、一人最大50万円の国内外学習支援プログラムを用意しております。

探究学習のさらなる高みを目指し、国内外で見聞を広めたい中高生の皆様のご応募をお待ちしております。

## 個人部門



### 「世界に伝えたい私の探究」

—Show your Research/Action to the World—

「世界に伝えたい私の探究」をテーマにして、自分が熱中している・夢中になっている探究の「成果」をプレゼンテーションしてください。

## チーム部門



### 「私たち×〇〇」

—Attract the World with your Research/Action—

「私たち×〇〇」をテーマにして、自分たちが熱中している・夢中になっている探究の「成果」をプレゼンテーションしてください。



## 地方ブロック予選

2022年 7月 8日	プレエントリー受付開始
11月22日	プレエントリー受付締切
11月23日	本エントリー受付開始 ・エッセイを提出していただきます
12月13日	本エントリー受付締切 ・エッセイの受け付けを締め切ります
12月14日	地方ブロック予選審査開始
12月21日	地方ブロック予選結果発表 ・当日の午後5時までにWebサイトを通じて発表します ・予選を通過した個人・チームは地方ブロック決勝へ進みます

## 地方ブロック決勝

2022年 12月22日	動画受付開始
2023年 1月13日	動画受付締切
1月14日	地方ブロック決勝審査開始
1月16日	地方ブロック決勝結果発表 ・地方ブロック決勝を通過した個人・チームは全国大会へ進みます

## 全国大会

2月15日	プレゼン資料受付締切
2月19日	全国大会開催

## ◆個人部門とチーム部門

CMAでは、個人部門とチーム部門の2つの部門に分けて審査を行います。エントリーは、個人部門、あるいはチーム部門のどちらか一方にのみ可能です。両方の部門に応募することはできませんのでご注意ください。

過去にCMAにエントリーしたことがある方、あるいは出場したことがある方が再びエントリーすることもできます。

1校から何人・何チームでもエントリーできます。

## ◆チーム部門のエントリー人数

チーム部門でエントリーできる人数は、1チームにつき2人から4人までです。なお、1つのチームにエントリーした人は、他のチームからエントリーすることはできません。

	参加可能人数	同じ部門への重複エントリー	他の部門への重複エントリー	前回エントリーしたことがある方のエントリー	1つの学校からのエントリー
個人部門	1人	できません	できません	できます	何人でもOK
チーム部門	2人～4人	できません	できません	できます	何チームでもOK

## ◆参加フロー

CMAに参加するには、「プレエントリー」への手続き、および「本エントリー」への手続きが必要です。手続きは、(1) CMAに出場を希望する生徒本人、(2) 生徒の保護者、(3) 生徒の担当教員（担任、英語科教員など）が行ってください。

## ◆エントリー方法

CMAのWebサイトから「プレエントリー」および「本エントリー」の手続きができます。お手持ちのパソコン、あるいはスマートフォンなどを使ってお手続きください。なお、郵便やFAXなどによるエントリーの受付は行っておりません。特別な事情がある場合はお問い合わせください。





エントリーは（1）プレエントリー、（2）本エントリーの順番で行ってください。



## ◆プレエントリー（2022年7月）

CMAへの参加を希望される方は、まず、プレエントリーにて出場の意思表示をしてください。プレエントリーでは、出場希望者の名前やメールアドレスなどの情報等を登録していただきます。お手持ちのPCやタブレット、スマートフォンなどからエントリーできます。なお、オンライン以外でのエントリーは行っていませんのでご了承ください。

## ◆本エントリー

プレエントリーが済んだら、次は本エントリーの手続きをしていただきます。本エントリーでは、地方ブロック予選用のエッセイを提出していただきます。本エントリーの締切後に地方ブロック予選が行われます。地方ブロック予選を通過した人は地方ブロック決勝へ進み、地方ブロック決勝を通過した人が全国大会に出場できます。

## ◆エントリーの手続きができる人

プレエントリー、および本エントリーの手続きができる方は、（1）出場希望者本人、（2）本人の保護者、（3）学校の担当の先生のいずれかです。

担当の先生の場合、個人部門 最大5人まで、チーム部門 最大5チームまで一括してエントリーできます。

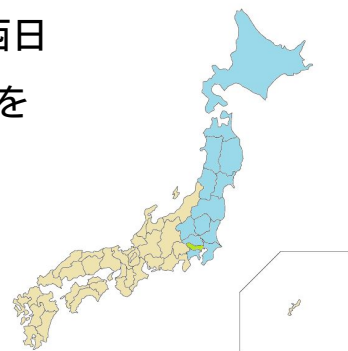
※6人以上、あるいは6チーム以上エントリーする場合は再度エントリーしてください。



# 予選・決勝ブロック



第5回CMAでは、日本を東日本ブロック、東京ブロック、西日本ブロックの3ブロックに分けて地方ブロック予選・決勝を行います。



## 東日本ブロック

東日本ブロック予選、東日本ブロック決勝を開催します

対象地域：北海道 青森県 岩手県 宮城県 秋田県 山形県 福島県  
茨城県 栃木県 群馬県 埼玉県 千葉県 神奈川県

## 東京ブロック

東京ブロック予選、東京ブロック決勝を開催します

対象地域：東京都

## 西日本ブロック

西日本ブロック予選、西日本ブロック決勝を開催します

対象地域：新潟県 富山県 石川県 福井県 山梨県 長野県 岐阜県  
静岡県 愛知県 三重県 滋賀県 京都府 大阪府 兵庫県 奈良県  
和歌山県 鳥取県 島根県 岡山県 広島県 山口県 徳島県 香川県  
愛媛県 高知県 福岡県 佐賀県 長崎県 熊本県 大分県 宮崎県  
鹿児島県 沖縄県

※エントリー数によってブロックの割り当てを変更する場合があります。

第5回 Change Maker Awards (CMA) では、地方ブロック予選、地方ブロック決勝、全国大会を開催します。審査は、個人部門とチーム部門に分けて行います。



## 地方ブロック予選

地方ブロック予選に出場するには、**本エントリーでエッセイを提出し手続きを済ませる必要があります。**

地方ブロック予選は、日本全国を東日本ブロック、東京ブロック、西日本ブロックの3ブロックに分けて開催します。

地方ブロック予選では、審査基準に基づいて書類審査を行います。そして、評価の高かった個人・チームに地方ブロック決勝への出場権が与えられます。

※各ブロック 20人・20チーム前後、合計 60人・60チーム前後が地方ブロック決勝へ進出します。

## 地方ブロック決勝

地方ブロック決勝では、地方ブロック予選を通過した個人・チームを対象に審査基準に基づいて動画審査を行います。

それぞれのブロックにおいて1位を獲得した個人・チームに全国大会への出場権が与えられます。

なお、1位の個人・チームには「地方ブロック金賞」、2位の個人・チームには「地方ブロック銀賞」、3位の個人・チームには「地方ブロック銅賞」を授与します。

各ブロックで2位以下の個人・チームの中から、評価の高かった7人・7チームに全国大会への出場権が与えられます。

※全国大会は10人・10チームが出場します。

※地方ブロック決勝で2位に入賞しても評価が低ければ全国大会に出場できない場合があります。一方、地方ブロック決勝で4位になったとしても評価が高ければ全国大会に出場できる場合があります。

## 地方ブロック予選

### 個人部門

- 東日本ブロック
  - 東京ブロック
  - 西日本ブロック
- に分かれて**書類審査**を実施

### チーム部門

- 東日本ブロック
  - 東京ブロック
  - 西日本ブロック
- に分かれて**書類審査**を実施



各ブロックの上位20人・20チームが  
地方ブロック決勝へ進出



個人部門から合計60人  
チーム部門から合計60チーム  
が決勝進出



## 地方ブロック決勝

### 個人部門

- 東日本ブロック
  - 東京ブロック
  - 西日本ブロック
- に分かれて**動画審査**を実施

### チーム部門

- 東日本ブロック
  - 東京ブロック
  - 西日本ブロック
- に分かれて**動画審査**を実施

各ブロックの上位1人・1チーム(計3人・3チーム)、および全ブ  
ロックの中から上位7人・7チームが全国大会へ進出



全国大会

# 入賞特典・参加特典

全国大会に出場した個人部門（10人）・チーム部門（10チーム）の中から金賞、銀賞、銅賞を授与し、学習支援プログラムを提供します。

スポンサー賞（個人部門 1人、チーム部門 1チーム）も用意しております。

入賞できなかった個人・チームには参加賞を授与し、学習支援プログラムを提供します。

学習支援プログラムには、提携する語学学校が提供する海外留学や英会話スクール、オンライン英会話スクールなどがあります。



## 金賞

個人部門：1名  
チーム部門：1チーム  
50万円分の学習支援プログラム



## 銀賞

個人部門：1名  
チーム部門：1チーム  
30万円分の学習支援プログラム



## 銅賞

個人部門：1名  
チーム部門：1チーム  
20万円分の学習支援プログラム



## スポンサー賞

個人部門：1名  
チーム部門：1チーム  
スポンサー企業による  
賞品授与



## 参加賞

個人部門：6名  
チーム部門：6チーム  
5万円分の学習支援プログラム

※チーム部門の方には、一人ひとりに学習支援プログラムを提供します。

※学習支援プログラムをお金に換えて受け取ることはできません。

※学習支援金を超える額の学習支援プログラムもお申し込みいただけます。ただし、超えた分は利用者負担となります。

## 準備中（以下は第4回CMAのものです）

金賞～銅賞の他に、CMAのスポンサーによる「スポンサー賞」があります。  
Global Link賞は、株式会社JTBによるスポンサー賞です。（第1回から設置）

## Global Link賞（第1回～）



# Global Link Online

### 世界とつながる教育プログラム

Global Link Online (<https://global-link-online.com/>) は、共通の興味関心を持つ他国からの参加生徒に向けて、自分の研究内容を英語で発表・議論でき、交流出来る課題研究グローバルコンテストです。研究内容や英語での発表をブラッシュアップできる事前プログラムもご用意し、中高生の皆さんの参加をお待ちしています。

Global Link賞を受賞したチームには、Global Link Online2022の出場権を授与し、参加費用は無料で招待されます。

## 準備中（以下は第4回CMAのものです）

The Japan Times Alpha賞は、株式会社ジャパントイムズ出版によるスポンサー賞です。（第3回から設置）

## The Japan Times Alpha賞（第3回～）

thejapantimes  
*alpha*

The Japan Times Alphaは日本で最も歴史のある英字新聞社ジャパントイムズが発行する週刊英語学習紙です。時事英語を大量に読み込むことを通してリアルな英語の習得を目指すことをコンセプトに、1951年の創刊以来、時代に合わせたりニューアルを重ねながら、70年にわたり熱心な英語学習者に親しまれています。

The Japan Times Alpha賞は、個人部門の出場者へ贈られます。

The Japan Times Alpha賞を受賞した生徒には、以下の特典を授与します。

- The Japan Times Alpha紙の1年間無料購読
- The Japan Times Alpha紙のデジタルビューアを通しての1年間無料購読

※デジタルビューアを利用するためのIDとパスワードを発行します。IDとパスワードは、受賞者の所属する学校のすべての方が利用できます。

地方ブロック予選では、エッセイを審査して地方ブロック決勝進出者を選出します。出場者は、審査当日に参加する必要はありません。

**エッセイは日本語で800字程度で書いてください。また、エッセイには必ず英語でタイトルを付けてください。**

※「800字程度」の文字数は、720文字以上880文字以下を目安にしてください。あまりにも少ない文字数・多い文字数にならないようご注意ください。

※タイトルの例（第4回CMAの例）：「Using Plastic Waste to Create Homes and Shelters」、「The Shibuya Olympiad of Liberal Arts SOLA 2021」

エッセイの提出はオンラインで行っていただきます。提出方法については、本エントリー受付開始間近に電子メール、Webサイトにてお知らせします。

## エッセイの内容について

### ◆個人部門

本選でプレゼンする探究学習について、以下の4点を述べてください。

1. 探究に至る背景
2. 探究の目的
3. 探究の成果
4. 世界をどう変えるか



### ◆チーム部門

本選でプレゼンする探究学習について、以下の4点を述べてください。

1. 探究の目的
2. 探究の成果
3. 世界をどう変えるか
4. なぜチームとして探究を行い本大会へ参加したのか

※エッセイを作成する前に、ページ後半の「地方ブロック予選審査基準」をご覧ください。また、本大会へ参加することを推奨します。



# 地方ブロック決勝 (1)

日付	内容
2022年	地方ブロック予選結果発表 ・地方ブロック予選を通過した個人・チームは地方ブロック決勝に進みます。
	地方ブロック決勝用動画の受付開始
	地方ブロック決勝用動画の受付締切
	地方ブロック決勝結果発表 ・地方ブロック決勝を通過した個人・チームは全国大会に進みます。

地方ブロック決勝では、動画を審査して全国大会進出者を選出します。出場者は、審査当日に参加する必要はありません。

## ◆地方ブロック決勝用動画の受付開始

- 地方ブロック決勝用動画の受付を開始します。
- 地方ブロック予選で提出したエッセイをもとにして、英語によるプレゼンテーションを動画にして提出していただきます。**提出物は動画のみ**です。

## ◆発表内容

- 全国大会を想定したプレゼンテーション内容にしてください。
- **使用言語は英語**です。
- 動画としての完成度よりも発表内容やプレゼンテーション能力に対して審査し評価します。
- 要点が簡潔でオリジナリティあふれる内容を期待します。

## ◆動画について

- 動画の**収録時間は4分以内**です。4分を超えないように注意してください。
- ファイル形式は、一般的によく用いられている **「.mov」形式、あるいは「.mp4」形式**とします。録画する際にどちらかのファイル形式になっていることを確認してください。
- ファイル容量は1GB以内です。提出する前に必ず確認してください。
- 撮影環境（環境音、明るさ、声の反響等）にご注意ください。

## ◆注意事項

※撮影機材についての指定はありませんが、スマホをご利用の場合は特に、録画時の音量にご注意ください。

※審査結果に関わらずデータ等の返却は行いません。

## ◆事務局のチェックについて

提出いただいた動画は、地方ブロック決勝前に事務局側にてチェックを行います。チェックする内容は下記の通りです。

- 発表者の声が聞き取れるかどうか  
声が小さすぎる、あるいは大きすぎて聞き取れない場合はNG。
- 発表者や周囲の様子が見えるかどうか  
暗すぎる、明るすぎて見えづらい場合はNG。
- スライドの文字が読めるかどうか  
スライドの文字が小さすぎる、あるいは大きすぎる、明るさの加減で読めないなどの場合はNG。
- 前ページの「動画について」に記載されている項目に反する場合はNG。



発表者の発言内容やスライドの内容など、プレゼンテーションの内容についてはチェックをしません。

**上記のチェック項目を必ず確認してから提出してください。**

チェックの結果、NGの箇所が見つかった場合は再提出していただきます。問題ない場合は提出完了となります。再提出でNGの場合は再々提出していただきます。**一度受理した動画は再提出できませんのでご注意ください。**

**締め切り間際に提出してNGだった場合、再提出日が締切日を過ぎてしまう可能性があります。NGだった場合でも再提出できるように早めに提出してください。**

## ◆提出方法

電子メールの添付ファイルにて提出してください。提出先は、[info@esibla.or.jp](mailto:info@esibla.or.jp) です。

本文には学校名と出場者の名前を明記してください。チーム部門の方は学校名とチームの代表者の名前を明記してください。

動画の提出後、2~3日以内にチェックの結果をお知らせします。（チェックOKの場合はそのまま提出完了となりますので、地方ブロック決勝結果発表日までお待ちください）

# 地方ブロック決勝 (3)



## ◆地方ブロック決勝審査基準をお読みください

地方ブロック決勝は「地方ブロック決勝審査基準」に従って審査を行います。本概要に収録されている「地方ブロック決勝審査基準」を必ずお読みの上、動画を作成してください。

## ◆動画サンプルをご覧ください

過去の動画の好事例をご覧ください。

- [個人部門銀賞 横浜市立南高等学校 加藤舞さん](#)
- [チーム部門銅賞 徳島県立城ノ内高等学校 エイミーの皆さん](#)

## ◆動画が送信できない場合

ご使用のメールアドレスから動画が送れない場合は、Gmailなど無料のメールアドレスを使って送ってください。

セキュリティの関係で学校のメールアドレスから送れない、というケースが多数報告されていますのでご注意ください。

地方ブロック決勝を通過した方は、2023年2月19日（日）に開催される全国大会へ出場していただきます。

全国大会では、地方ブロック予選、および地方ブロック決勝で発表した探究学習について英語でプレゼンテーションしていただきます。プレゼンテーションの時間は7分間です。

全国大会の前に、プレゼンテーション用のスライドを作成して提出していただきます。提出方法などはWebサイトなどでお知らせします。

## ◆本選日時・会場情報

日時：2023年2月19日（日）10:00-17:00

会場：東京国際交流館プラザ平成

配信：YouTubeライブ配信（無料で視聴できます）

※新型コロナウイルス感染症の感染状況により日時や会場、開催形態を変更する場合があります。



今後決まり次第、順次更新していきます。

## 炭谷 俊樹 先生



### ◆プロフィール

ランネット・グローバルスクール代表、神戸情報大学院大学学長  
アインシュタインに憧れ、物理学者の道を目指すも挫折。マッキンゼーにて10年間日本及び北欧企業のコンサルティングに携わる。新人コンサルタント 採用・研修の責任者も担当。デンマークの社会や教育、とくに娘が通った幼稚園に感銘したことがきっかけで1996年、子どもの個性を活かす「ランネット・グローバルスクール」を神戸で創設。2010年からは神戸情報大学院大学学長として社会人が社会問題を技術で解決する探究型教育も実践。2019年には「探究メディアQ」を立ち上げ、子どもの探究心を爆発させるための活動に力を入れている。

著書 『第3の教育』、『ゼロから始める社会起業』『実践 課題解決の新技术』

### ◆出場者へのメッセージ

是非ご自身の言葉でご自身の思いを語ってください。楽しみにしています！

## 長谷部 真奈見 氏



### ◆プロフィール

株式会社FinCube 代表取締役、経済キャスター  
慶應義塾大学法学部法律学科卒業後、米JPモルガン証券株式会社に入社。投資銀行部門にてM&A（企業の合併・買収）に従事。NY本社勤務中「9.11世界同時多発テロ事件」に遭遇したことをきっかけにジャーナリズムの道を目指しテレビ局に入社。報道番組の記者兼キャスターを務め、現在は金融経済番組のキャスター、ファイナンシャルプランナーとしてメディアに出演中。高校時代は米国へ留学し、オレゴン州イーグルポイントハイスクール卒業。

### ◆出場者へのメッセージ

今年も皆さんの挑戦、発表を楽しみにしています！  
If you believe in yourself, anything is possible.  
応援しています！

全国大会に出場される方には、一定の条件を満たす場合に限り会場までの交通費・宿泊費を支給いたします。出場する生徒の保護者や家族、友人、担当先生などは支給の対象にはなりませんのでご了承ください。

## ◆支給条件

- 当日の参加にあたり前泊が必要な場合  
都内のホテルに前泊しないと大会への出場ができない、あるいは困難な場合は、交通費、および宿泊費を支給します。
- 往復の交通費が1万円を超える場合  
前泊の必要はないが、往復の交通費が1万円を超える場合は、交通費を支給します。

※グリーン席の利用や一流ホテルの利用など、ぜいたくな利用は支給の対象外です。また、会場まで迂回するルートを使う場合も支給の対象外です。

新幹線や特急電車の利用は可能です。

※食費や旅行ケース代、おみやげ代などは支給の対象外です。

## ◆支給について

- 支給額は最大3万円（税込）です。  
3万円を超える金額は出場者が負担してください。
- 支給を希望される方は全国大会の前日までに申請してください。  
**申請方法は後日お知らせする予定です。**
- 全国大会終了後に支給する予定です。



# 地方ブロック予選審査基準 個人部門（1）



## ◆審査基準

1. テーマに指定された内容が全て読み取れるか  
Yes / No
2. 目的に対して、探究活動の内容が論理的なアプローチとなっているか  
1 — 2 — 3 — 4 — 5 — 6 — 7
3. 探究活動の実績から、目標達成への進捗が読み取れるか  
1 — 2 — 3 — 4 — 5 — 6 — 7
4. 探究学習を通じて実現したい Change が具体的に述べられているか  
1 — 2 — 3 — 4 — 5 — 6 — 7
5. 探究活動の成果を具体的にわかりやすく述べているか  
1 — 2 — 3 — 4 — 5 — 6 — 7

## ◆解説

1. 「テーマに指定された内容が全て読み取れるか」  
エッセイテーマに指定された4点が全てエッセイの中に盛り込まれているかを評価します。
2. 「目的に対して、探究活動の内容が論理的なアプローチとなっているか」  
目的とは、探究活動のゴールに相当します。ここでは、探究学習の内容がどうやってゴールの達成に繋がるのかを論理的に説明しているかを評価します。  
論理的と判断される例：  
目的：特定海域でのクラゲの大量発生による被害を小さくする  
探究学習内容：  
・クラゲの天敵である生物の繁殖促進方法の研究  
・発生したクラゲの商品化プロジェクト  
非論理的と判断される例：  
目的：特定海域でのクラゲの大量発生による被害を小さくする  
探究学習内容：  
・クラゲの大量発生の実態についてまとめたレポートの作成  
※まとめ学習は情報の整理であり、目的に直接アプローチするものではありません。

# 地方ブロック予選審査基準 個人部門 (2)



## 3. 「探究活動の実績から、目標達成への進捗が読み取れるか」

エッセイテーマの1つ「探究の実績」から、目標達成への進捗が読み取れるかを評価します。

進捗が読み取れる例：

目的：ボランティアで訪れた農村部の子供たちの計算能力を高める

探究学習内容：子供たちの計算能力を伸ばす教育メソッドやツールの研究

目標達成への進捗：教育メソッドやツールの実践前後で、子供たちの計算問題に対する考え方がどう変わったかの記録と考察、計算テストのスコア平均値にどれだけの変化が出たかの記録など

進捗が読み取れない例：

目的：ボランティアで訪れた農村部の子供たちの計算能力を高める

探究学習内容：子供たちの計算能力を伸ばす教育メソッドやツールの実践記録

※授業で何を行ったかのみが詳細にまとめられている発表では、目的に対してどれだけの進捗が生まれたのかが読み取れません。

## 4. 「探究学習を通じて実現したい Change が具体的に述べられているか」

探究学習の目的達成が、世界にどんな Change を起こすのかについて説明されているかを評価します。

Change が述べられている例：

Change：廃棄食品を出さない/有効活用するビジネスモデルを示し、食品ロス削減の輪を広げる

目的：あるパン屋の廃棄商品を減らす

探究学習内容：顧客の出入りのパターンや値下げのタイミング、商品の生産量などを分析し、廃棄商品が実質0になる営業パターンを研究

Change が述べられていない例：

目的：あるパン屋の廃棄商品を減らす

探究学習内容：顧客の出入りのパターンや値下げのタイミング、商品の生産量などを分析し、廃棄食品が実質0になる営業パターンを研究

※目的に対するアプローチは取られていますが、自分の探究が持つ社会的インパクトについて考察されていません。

## 5. 「探究活動の成果を具体的にわかりやすく述べているか」

探究活動の結果、どのような成果が得られたかを具体的にわかりやすく述べているかどうかを測ります。成果をまったく述べていない場合は1、不明瞭な場合は2~3で評価。

※「1」がNoの場合、スコアは0点になります。

※最大スコアは28点です。

# 地方ブロック予選審査基準 チーム部門（1）



## ◆審査基準

1. テーマに指定された内容が全て読み取れるか  
Yes / No
2. 目的に対して、探究活動の内容が論理的なアプローチとなっているか  
1 — 2 — 3 — 4 — 5 — 6 — 7
3. チームワークが探究活動の推進力となっているか  
1 — 2 — 3 — 4 — 5 — 6 — 7
4. 探究学習を通じて実現したい Change が具体的に述べられているか  
1 — 2 — 3 — 4 — 5 — 6 — 7
5. 探究活動の成果を具体的にわかりやすく述べているか  
1 — 2 — 3 — 4 — 5 — 6 — 7

## ◆解説

1. 「テーマに指定された内容が全て読み取れるか」  
エッセイテーマに指定された4点が全てエッセイの中に盛り込まれているかを評価します。
2. 「目的に対して、探究活動の内容が論理的なアプローチとなっているか」  
目的とは、探究活動のゴールに相当します。ここでは、探究学習の内容がどうやってゴールの達成に繋がるのかを論理的に説明しているかを評価します。  
論理的と判断される例：  
目的：特定海域でのクラゲの大量発生による被害を小さくする  
探究学習内容：  
・クラゲの天敵である生物の繁殖促進方法の研究  
・発生したクラゲの商品化プロジェクト  
非論理的と判断される例：  
目的：特定海域でのクラゲの大量発生による被害を小さくする  
探究学習内容：  
・クラゲの大量発生の実態についてまとめたレポートの作成  
※まとめ学習は情報の整理であり、目的に直接アプローチするものではありません。

# 地方ブロック予選審査基準 チーム部門（2）



## 3. 「チームワークが探究活動の推進力となっているか」

チームメンバーの長所を活かすなど、チームとして活動する上での工夫が行われているかを評価します。具体的なチームワークの内容を仔細に説明する必要はありませんが、チームとして取り組んだことでどのようなポジティブな面が探究活動に現れたか、エッセイ中で触れてください。

チームワークが読み取れる例：

この実験では、2時間ごとの経過記録が必要だったため、毎日のローテーションを組みました。部活動の関係からローテーションに参加できなかった生徒は、別の時間で次の実験で必要となるモデルの作成に取り組みました。

チームワークが読み取れない例：

この実験では、2時間ごとに経過記録を取りました。2種類のモデルを準備し、それぞれの経過記録の差分からモデルAの効果の高いことがわかりました。

## 4. 「探究学習を通じて実現したい Change が具体的に述べられているか」

探究学習の目的達成が、世界にどんな Change を起こすのかについて説明されているかを評価します。

Change が述べられている例：

Change：廃棄食品を出さない/有効活用するビジネスモデルを示し、食品ロス削減の輪を広げる

目的：あるパン屋の廃棄商品を減らす

探究学習内容：顧客の出入りのパターンや値下げのタイミング、商品の生産量などを分析し、廃棄商品が実質0になる営業パターンを研究

Change が述べられていない例：

目的：あるパン屋の廃棄食品を減らす

探究学習内容：顧客の出入りのパターンや値下げのタイミング、商品の生産量などを分析し、廃棄食品が実質0になる営業パターンを研究

※目的に対するアプローチは取られていますが、自分の探究が持つ社会的インパクトについて考察されていません。

## 5. 「探究活動の成果を具体的にわかりやすく述べているか」

探究活動の結果、どのような成果が得られたかを具体的にわかりやすく述べているかどうかを測ります。成果をまったく述べていない場合は1、不明瞭な場合は2～3で評価。

※「1」がNoの場合、スコアは0点になります。

※最大スコアは28点です。

# 地方ブロック決勝審査基準 個人部門 (1)

英語力14ポイント、内容90ポイント、満点104ポイント

## ○Delivery 7×2=14points

### 1. The voice of speaker is:

hard to hear 1 — 2 — 3 — 4 — 5 — 6 — 7 easy to hear

聞き取りやすい発声、発音であれば7。カタカナ英語や抑揚をつけない話し方、速すぎたり遅すぎたりして聞き取りづらい話し方などは1~3で評価。

### 2. He/She uses body language:

poorly 1 — 2 — 3 — 4 — 5 — 6 — 7 well

より伝わりやすいようにボディランゲージを使った話し方をしていれば程度に応じて4~7で評価。あまり体を動かさない、顔で喜怒哀楽を表さない場合は1~3で評価。

## ○Content (7×6+3×1=45points) ×2=90points

### 1. The objective of his/her action to make change was stated:

ineffectively 1 — 2 — 3 — 4 — 5 — 6 — 7 effectively

目標と自らが起こす Change を具体的に述べられているかを評価します。達成目標を提示したアクションが有効なレベルまで具体化していれば程度によって4~7。提示したアクションに対し、問題や達成目標が抽象的または大きすぎる場合は程度によって1~3。

例1:

問題: より良い世界の実現

目標 (Object) : 質の高い教育の機会を平等にする

アクション: 良い教育を広げる

→1~3の評価

例2:

問題: プラスチックによる海洋汚染

目標・夢 (Object) : 特定海域のクラゲの大量発生を止める

アクション: ・プラスチックゴミを効果的に取り除く方法を考案し、クラゲの天敵である在来種を増やす

・効果的にクラゲを取り除き再利用するユニークなシステムを提案

→4~7の評価

### 2. Both the motivation and background of his/her activity are explained and appealed to the audience:

poorly 1 — 2 — 3 — 4 — 5 — 6 — 7 well

探究テーマを選定した動機と探究活動の背景が明確に語られれば、程度に応じて4~7の評価。上記が不明確、または語られなかった場合は、程度に応じて1~3の評価。

3. His/Her action plan was carried out with a unique and logical perspective:  
unsuccessfully 1 — 2 — 3 — 4 — 5 — 6 — 7 successfully

1の目標 (Object) に対し、アクションに至る視点の論理性と具体性を測ります。目標 (Object) の実現のため、どういう視点でアクションを考えたか説明があれば論理性と具体性の程度に応じて4~7の評価。視点の論理性と具体性が不十分であれば、程度に応じて1~3の評価。

例1:

問題: より良い世界の実現

目標・夢 (Object): 質の高い教育の機会を平等にする

視点: 良い教育をすべての人が享受できれば、より良い世界になる

アクション: 良い教育の機会を広げる

→教育の質と機会と「良い世界」の関係性が説明なく、視点の論理性と具体性が乏しい。

→1~3の評価

例2:

問題: プラスチックによる海洋汚染

目標・夢 (Object): 特定海域のクラゲの大量発生を止める

視点: ・クラゲを人為的に取り除くマンパワーが足りないので、人間以外の生物を使って駆除できるようにしよう

・クラゲの大量発生は様々な要因があるので、発生しているクラゲが利益を生むシステムを作ろう

アクション: ・プラスチックゴミを効果的に取り除く方法を考案し、クラゲの天敵である在来種を増やす

・効果的にクラゲを取り除き再利用するユニークなシステムを提案

→4~7の評価

4. His/Her action to make change was explained:

illogically 1 — 2 — 3 — 4 — 5 — 6 — 7 logically

1の目標 (Object) に対するアクションの効果を測ります。目標 (Object) に対するアクションの効果が論理的に説明されていれば程度に応じて4~7の評価。目標 (Object) に対するアクションの論理性が説明されていない、または説明が不十分であれば1~3の評価。

例1:

問題: より良い世界の実現

目標 (Object): 質の高い教育の機会を平等にする

アクション: 良い教育の機会を広げる。特定地域での教育ボランティアを行う。

→1~3の評価。アクションによる目標への効果の程度や仕組みが論理的に説明されていない。

例2:

問題: プラスチックによる海洋汚染

目標 (Object): 特定海域のクラゲの大量発生を止める

アクション: プラスチックゴミを効果的に取り除く方法を考案し、ゴミの減少とクラゲの天敵である在来種の増加を観察

→4~7の評価。アクションによる問題への効果計測が示されている。



# 地方ブロック決勝審査基準 個人部門 (3)



5. Each idea is supported by specific examples (data, anecdotes, facts, etc.):

weakly 1 — 2 — 3 strongly

プレゼンテーション全体で述べられる主張が、自ら取ったデータや他者の調査データ、または仮説などによって補強されているかを測ります。

6. The speaker explains how his or her idea can contribute to the world:

illogically 1 — 2 — 3 — 4 — 5 — 6 — 7 logically

問題と目標 (Object) の相互関係が論理的に説明されているかどうかを測ります。提示した問題に対し、目標の実現が問題解決に繋がるものであるかどうか、論理的に説明されていれば、程度に応じて4~7の評価。説明がない、または論理性が不十分であれば1~3の評価。

例1:

問題: より良い世界の実現

目標 (Object): 質の高い教育の機会を平等にする

アクション: 良い教育を広げる

→1~3 の評価。「教育の機会平等化」がどのように「より良い世界の実現」と繋がるのか、説明が不十分。

例2:

問題: プラスチックによる海洋汚染

目標 (Object): 特定海域のクラゲの大量発生を止める

アクション: ・プラスチックゴミを効果的に取り除く方法を考案し、クラゲの天敵である在来種を増やす

・効果的にクラゲを取り除き再利用するユニークなシステムを提案

→4~7 の評価。「特定海域のクラゲの大量発生」の原因としてプラスチック汚染を挙げ、その問題解決の過程でプラスチック汚染軽減 につながるアクションを取っている。

7. The results of inquiry learning are:

easy to understand 1 — 2 — 3 — 4 — 5 — 6 — 7 difficult to understand

探究活動の結果、どのような成果が得られたかを具体的にわかりやすく述べているかどうかを測ります。成果をまったく述べていない場合は1、不明瞭な場合は2~3で評価。



# 地方ブロック決勝審査基準 チーム部門 (1)



英語力14ポイント、内容84ポイント、満点98ポイント

## ○Delivery 7×2=14points

### 1. The voice of speakers are:

hard to hear 1 — 2 — 3 — 4 — 5 — 6 — 7 easy to hear

聞き取りやすい発声、発音であれば7。カタカナ英語や抑揚をつけない話し方、速すぎたり遅すぎたりして聞き取りづらい話し方などは1~3で評価。

### 2. They use body language:

poorly 1 — 2 — 3 — 4 — 5 — 6 — 7 well

より伝わりやすいようにボディランゲージを使った話し方をしていれば程度に応じて4~7で評価。あまり体を動かさない、顔で喜怒哀楽を表さない場合は1~3で評価。

## ○Content (7×6=42points) ×2=84points

### 1. The research questions including the background information on the topic are stated:

unclearly 1 — 2 — 3 — 4 — 5 — 6 — 7 clearly

探究テーマを選定した動機と探究活動の背景が明確に語られれば、程度に応じて4~7の評価。上記が不明確、または語られなかった場合は、程度に応じて1~3の評価。

### 2. An effective research method for the study theme is used:

unsuccessfully 1 — 2 — 3 — 4 — 5 — 6 — 7 successfully

アクションの効果を証明するために、効果的な調査が行われているかを評価します。効果的と思われる調査が行われていれば、その論理性に 応じて4~7の評価。

例1:

主張 (idea) : 良い教育をすべての人が享受できれば、より良い世界になる

調査: 「良い教育を全人類が受けたら、世界が良くなるか」を100人にアンケートを取った

アクション: 良い教育の機会を広げる

→1~3 の評価

例2:

問題: プラスチックによる海洋汚染

目標: 特定海域のクラゲの大量発生を止める

視点: ・クラゲを人為的に取り除くマンパワーが足りないの、人間以外の生物を使って駆除できるようにしよう

・クラゲの大量発生は様々な要因があるので発生しているクラゲが利益を生むシステムを作ろう

調査: ・クラゲをマンパワーで回収するときのコストを計算した

・クラゲが大量発生する時期を調査し、アクションを行うスケジュールを設計した

# 地方ブロック決勝審査基準 チーム部門 (2)

アクション：・プラスチックゴミを効果的に取り除く方法を考案しクラゲの天敵である在来種を増やす

・効果的にクラゲを取り除き再利用するユニークなシステムを提案

→4~7の評価

### 3. Action plan was carried out with a unique and logical perspective:

unsuccessfully 1 — 2 — 3 — 4 — 5 — 6 — 7 successfully

目標 (Object) に対し、アクションに至る視点の論理性と具体性を測ります。目標 (Object) の実現のため、どういう視点でアクションを考えたか説明があれば、論理性と具体性の程度に応じて4~7の評価。視点の論理性と具体性が不十分であれば、程度に応じて1~3の評価。

例1：

問題：より良い世界の実現

目標・夢 (Object)：質の高い教育の機会を平等にする

視点：良い教育をすべての人が享受できれば、より良い世界になる

アクション：良い教育の機会を広げる

→教育の質と機会と「良い世界」の関係性が説明なく、視点の論理性と具体性が乏しい。

→1~3の評価

例2：

問題：プラスチックによる海洋汚染

目標・夢 (Object)：特定海域のクラゲの大量発生を止める

視点：・クラゲを人為的に取り除くマンパワーが足りないので、人間以外の生物を使って駆除できるようにしよう

・クラゲの大量発生は様々な要因があるので、発生しているクラゲが利益を生むシステムを作ろう

アクション：・プラスチックゴミを効果的に取り除く方法を考案し、クラゲの天敵である在来種を増やす

・効果的にクラゲを取り除き再利用するユニークなシステムを提案

→4~7の評価

### 4. Action to make change was explained:

illogically 1 — 2 — 3 — 4 — 5 — 6 — 7 logically

目標 (Object) に対するアクションの効果を測ります。目標 (Object) に対するアクションの効果が論理的に説明されていれば、程度に応じて4~7の評価。目標 (Object) に対するアクションの論理性が説明されていない、または説明が不十分であれば1~3の評価。

例1：

問題：より良い世界の実現

目標 (Object)：質の高い教育の機会を平等にする

アクション：良い教育の機会を広げる。特定地域での教育ボランティアを行う。

→1~3の評価。アクションによる目標への効果の程度や仕組みが論理的に説明されていない

# 地方ブロック決勝審査基準 チーム部門 (3)



例2：

問題：プラスチックによる海洋汚染

目標 (Object)：特定海域のクラゲの大量発生を止める

アクション：プラスチックゴミを効果的に取り除く方法を考案し、ゴミの減少とクラゲの天敵である在来種の増加を観察→4～7の評価。アクションによる問題への効果計測が示されている。

5. The speaker explains how his or her idea can contribute to the world:

illogically 1 — 2 — 3 — 4 — 5 — 6 — 7 logically

問題と目標 (Object) の相互関係が論理的に説明されているかどうかを測ります。提示した問題に対し、目標の実現が問題解決に繋がるものであるかどうか、論理的に説明されていれば、程度に応じて4～7の評価。説明がない、または論理性が不十分であれば1～3の評価。

例1：

問題：より良い世界の実現

目標 (Object)：質の高い教育の機会を平等にする

アクション：良い教育を広げる

→1～3 の評価。「教育の機会平等化」がどのように「より良い世界の実現」と繋がるのか、説明が不十分。

例2：

問題：プラスチックによる海洋汚染

目標 (Object)：特定海域のクラゲの大量発生を止める

アクション：・プラスチックゴミを効果的に取り除く方法を考案し、クラゲの天敵である在来種を増やす

・効果的にクラゲを取り除き再利用するユニークなシステムを提案

→4～7 の評価。「特定海域のクラゲの大量発生」の原因としてプラスチック汚染を挙げ、その問題解決の過程でプラスチック汚染軽減 につながるアクションを取っている。

6. The results of inquiry learning are:

easy to understand 1 — 2 — 3 — 4 — 5 — 6 — 7 difficult to understand

探究活動の結果、どのような成果が得られたかを具体的にわかりやすく述べているかどうかを測ります。成果をまったく述べていない場合は1、不明瞭な場合は2～3で評価。

# 全国大会審査基準 個人部門 (1)



英語力14ポイント、内容114 (90+24) ポイント、満点128ポイント

## ○Delivery 7×2=14points

### 1. The voice of speaker is:

hard to hear 1 — 2 — 3 — 4 — 5 — 6 — 7 easy to hear

聞き取りやすい発声、発音であれば7。カタカナ英語や抑揚をつけない話し方、速すぎたり遅すぎたりして聞き取りづらい話し方などは1~3で評価。

### 2. He/She uses body language:

poorly 1 — 2 — 3 — 4 — 5 — 6 — 7 well

より伝わりやすいようにボディランゲージを使った話し方をしていれば程度に応じて4~7で評価。あまり体を動かさない、顔で喜怒哀楽を表さない場合は1~3で評価。

## ○Content (7×6+3×1=45points) ×2=90points

### 1. The objective of his/her action to make change was stated:

ineffectively 1 — 2 — 3 — 4 — 5 — 6 — 7 effectively

目標と自らが起こす Change を具体的に述べられているかを評価します。達成目標を、提示したアクションが有効なレベルまで具体化していれば、程度によって4~7。提示したアクションに対し、問題や達成目標が抽象的または大きすぎる場合は、程度によって1~3。

例1:

問題：より良い世界の実現

目標 (Object) : 質の高い教育の機会を平等にする

アクション：良い教育を広げる

→1~3 の評価

例2:

問題：プラスチックによる海洋汚染

目標・夢 (Object) : 特定海域のクラゲの大量発生を止める

アクション：・プラスチックゴミを効果的に取り除く方法を考案し、クラゲの天敵である在来種を増やす

・効果的にクラゲを取り除き再利用するユニークなシステムを提案

→4~7 の評価

### 2. Both the motivation and background of his/her activity are explained and appealed to the audience:

poorly 1 — 2 — 3 — 4 — 5 — 6 — 7 well

探究テーマを選定した動機と探究活動の背景が明確に語られれば、程度に応じて4~7の評価。上記が不明確、または語られなかった場合は、程度に応じて1~3の評価。

### 3. His/Her action plan was carried out with a unique and logical perspective:

unsuccessfully 1 — 2 — 3 — 4 — 5 — 6 — 7 successfully

1の目標 (Object) に対し、アクションに至る視点の論理性と具体性を測ります。目標 (Object) の実現のため、どういう視点でアクションを考えたか説明があれば、論理性と具体性の程度に応じて4~7の評価。視点の論理性と具体性が不十分であれば、程度に応じて1~3の評価。

例1:

問題: より良い世界の実現

目標・夢 (Object): 質の高い教育の機会を平等にする

視点: 良い教育をすべての人が享受できれば、より良い世界になる

アクション: 良い教育の機会を広げる

→教育の質と機会と「良い世界」の関係性が説明なく、視点の論理性と具体性が乏しい

→1~3の評価

例2:

問題: プラスチックによる海洋汚染

目標・夢 (Object): 特定海域のクラゲの大量発生を止める

視点: ・クラゲを人為的に取り除くマンパワーが足りないので、人間以外の生物を使って駆除できるようにしよう

・クラゲの大量発生は様々な要因があるので、発生しているクラゲが利益を生むシステムを作ろう

アクション: ・プラスチックゴミを効果的に取り除く方法を考案し、クラゲの天敵である在来種を増やす

・効果的にクラゲを取り除き再利用するユニークなシステムを提案

→4~7の評価

### 4. His/Her action to make change was explained:

illogically 1 — 2 — 3 — 4 — 5 — 6 — 7 logically

1の目標 (Object) に対するアクションの効果を測ります。目標 (Object) に対するアクションの効果が論理的に説明されていれば程度に応じて4~7の評価。目標 (Object) に対するアクションの論理性が説明されていない、または説明が不十分であれば1~3の評価。

例1:

問題: より良い世界の実現

目標 (Object): 質の高い教育の機会を平等にする

アクション: 良い教育の機会を広げる。特定地域での教育ボランティアを行う。

→1~3の評価。アクションによる目標への効果の程度や仕組みが論理的に説明されていない。

例2:

問題: プラスチックによる海洋汚染

目標 (Object): 特定海域のクラゲの大量発生を止める

アクション: プラスチックゴミを効果的に取り除く方法を考案し、ゴミの減少とクラゲの天敵である在来種の増加を観察

→4~7の評価。アクションによる問題への効果計測が示されている。

5. Each idea is supported by specific examples (data, anecdotes, facts, etc.):

weakly 1 — 2 — 3 strongly

プレゼンテーション全体で述べられる主張が、自ら取ったデータや他者の調査データまたは仮説などによって補強されているかを測ります。

6. The speaker explains how his or her idea can contribute to the world:

illogically 1 — 2 — 3 — 4 — 5 — 6 — 7 logically

問題と目標 (Object) の相互関係が論理的に説明されているかどうかを測ります。提示した問題に対し、目標の実現が問題解決に繋がるものであるかどうか、論理的に説明されていれば、程度に応じて4~7の評価。説明がない、または論理性が不十分であれば1~3の評価。

例1:

問題: より良い世界の実現

目標 (Object): 質の高い教育の機会を平等にする

アクション: 良い教育を広げる

→1~3 の評価。「教育の機会平等化」がどのように「より良い世界の実現」と繋がるのか、説明が不十分。

例2:

問題: プラスチックによる海洋汚染

目標 (Object): 特定海域のクラゲの大量発生を止める

アクション: ・プラスチックゴミを効果的に取り除く方法を考案し、クラゲの天敵である在来種を増やす

・効果的にクラゲを取り除き再利用するユニークなシステムを提案

→4~7の評価。「特定海域のクラゲの大量発生」の原因としてプラスチック汚染を挙げ、その問題解決の過程でプラスチック汚染軽減につながるアクションを取っている。

7. The results of inquiry learning are:

easy to understand 1 — 2 — 3 — 4 — 5 — 6 — 7 difficult to understand

探究活動の結果、どのような成果が得られたかを具体的にわかりやすく述べているかどうかを測ります。成果をまったく述べていない場合は1、不明瞭な場合は2~3で評価。

# 全国大会審査基準 個人部門（4）

## ○Performance (3×2=6points) ×4=24points

1. The speaker handles questions:  
poorly 1 — 2 — 3 well

2. Completeness of the presentation. His/Her subject is expressed:  
1 — 2 — 3

プレゼンテーションとしての完成度を総合的に評価します。Delivery に見られる英語の運用力だけでなく、多彩なプレゼンテーマを聴衆に理解させるための創意工夫が為されているかを下記の評価ポイントの総合点で評価してください。（Yesなら1点、Noなら0点）

評価ポイント：

- ・テーマに対する聴衆の理解へ配慮する工夫がなされていた（Yes / No）
- ・一貫した主張を持ってプレゼンテーションが構成されていた（Yes / No）
- ・質疑応答でのコミュニケーションにおいて、質問に対する回答が明確に語られていた（Yes / No）



# 全国大会審査基準 チーム部門 (1)

英語力14ポイント、内容108 (84+24) ポイント、満点122ポイント

## ○Delivery 7×2=14points

1. The voice of speakers are:

hard to hear 1 — 2 — 3 — 4 — 5 — 6 — 7 easy to hear

聞き取りやすい発声、発音であれば7。カタカナ英語や抑揚をつけない話し方、速すぎたり遅すぎたりして聞き取りづらい話し方などは1~3で評価。

2. They use body language:

poorly 1 — 2 — 3 — 4 — 5 — 6 — 7 well

より伝わりやすいようにボディランゲージを使った話し方をしていれば程度に応じて4~7で評価。あまり体を動かさない、顔で喜怒哀楽を表さない場合は1~3で評価。

## ○Content (7×6=42points) ×2=84points

1. The research questions including the background information on the topic are stated:

unclearly 1 — 2 — 3 — 4 — 5 — 6 — 7 clearly

探究テーマを選定した動機と探究活動の背景が明確に語られれば、程度に応じて4~7の評価。上記が不明確、または語られなかった場合は、程度に応じて1~3の評価。

2. An effective research method for the study theme is used:

unsuccessfully 1 — 2 — 3 — 4 — 5 — 6 — 7 successfully

アクションの効果を証明するために、効果的な調査が行われているかを評価します。効果的と思われる調査が行われていれば、その論理性に応じて4~7の評価。

例1:

主張 (idea) : 良い教育をすべての人が享受できれば、より良い世界になる

調査: 「良い教育を全人類が受けたら、世界が良くなるか」を100人にアンケートを取った

アクション: 良い教育の機会を広げる

→1~3の評価

例2:

問題: プラスチックによる海洋汚染

目標: 特定海域のクラゲの大量発生を止める

視点: ・クラゲを人為的に取り除くマンパワーが足りないの、人間以外の生物を使って  
駆除できるようにしよう

・クラゲの大量発生は様々な要因があるので、発生しているクラゲが利益を生むシステムを作ろう

調査: ・クラゲをマンパワーで回収するときのコストを計算した

・クラゲが大量発生する時期を調査し、アクションを行うスケジュールを設計した

アクション: ・プラスチックゴミを効果的に取り除く方法を考案し、クラゲの天敵である  
在来種を増やす

・効果的にクラゲを取り除き再利用するユニークなシステムを提案

→4~7の評価

### 3. Action plan was carried out with a unique and logical perspective:

unsuccessfully 1 — 2 — 3 — 4 — 5 — 6 — 7 successfully

目標 (Object) に対し、アクションに至る視点の論理性と具体性を測ります。目標 (Object) の実現のため、どういう視点でアクションを考えたか説明があれば、論理性と具体性の程度に応じて4~7の評価。視点の論理性と具体性が不十分であれば、程度に応じて1~3の評価。

例1:

問題: より良い世界の実現

目標・夢 (Object): 質の高い教育の機会を平等にする

視点: 良い教育をすべての人が享受できれば、より良い世界になる

アクション: 良い教育の機会を広げる

→教育の質と機会と「良い世界」の関係性が説明なく、視点の論理性と具体性が乏しい

→1~3の評価

例2:

問題: プラスチックによる海洋汚染

目標・夢 (Object): 特定海域のクラゲの大量発生を止める

視点: ・クラゲを人為的に取り除くマンパワーが足りないので、人間以外の生物を使って駆除できるようにしよう

・クラゲの大量発生は様々な要因があるので、発生しているクラゲが利益を生むシステムを作ろう

アクション: ・プラスチックゴミを効果的に取り除く方法を考案し、クラゲの天敵である在来種を増やす

・効果的にクラゲを取り除き再利用するユニークなシステムを提案

→4~7の評価

### 4. Action to make change was explained:

illogically 1 — 2 — 3 — 4 — 5 — 6 — 7 logically

目標 (Object) に対するアクションの効果を測ります。目標 (Object) に対するアクションの効果が論理的に説明されていれば、程度に応じて4~7の評価。目標 (Object) に対するアクションの論理性が説明されていない、または説明が不十分であれば1~3の評価。

例1:

問題: より良い世界の実現

目標 (Object): 質の高い教育の機会を平等にする

アクション: 良い教育の機会を広げる。特定地域での教育ボランティアを行う。

→1~3の評価。アクションによる目標への効果の程度や仕組みが論理的に説明されていない

例2:

問題: プラスチックによる海洋汚染

目標 (Object): 特定海域のクラゲの大量発生を止める

アクション: プラスチックゴミを効果的に取り除く方法を考案し、ゴミの減少とクラゲの天敵である在来種の増加を観察

→4~7の評価。アクションによる問題への効果計測が示されている

5. The speaker explains how his or her idea can contribute to the world:

illogically 1 — 2 — 3 — 4 — 5 — 6 — 7 logically

問題と目標 (Object) の相互関係が論理的に説明されているかどうかを測ります。提示した問題に対し、目標の実現が問題解決に繋がるものであるかどうか、論理的に説明されていれば、程度に応じて4~7の評価。説明がない、または論理性が不十分であれば1~3の評価。

例1:

問題: より良い世界の実現

目標 (Object): 質の高い教育の機会を平等にする

アクション: 良い教育を広げる

→1~3 の評価。「教育の機会平等化」がどのように「より良い世界の実現」と繋がるのか、説明が不十分。

例2:

問題: プラスチックによる海洋汚染

目標 (Object): 特定海域のクラゲの大量発生を止める

アクション: ・プラスチックゴミを効果的に取り除く方法を考案し、クラゲの天敵である  
在来種を増やす

・効果的にクラゲを取り除き再利用するユニークなシステムを提案

→4~7の評価。「特定海域のクラゲの大量発生」の原因としてプラスチック汚染を挙げ、その問題解決の過程でプラスチック汚染軽減 につながるアクションを取っている。

6. The results of inquiry learning are:

easy to understand 1 — 2 — 3 — 4 — 5 — 6 — 7 difficult to understand

探究活動の結果、どのような成果が得られたかを具体的にわかりやすく述べているかどうかを測ります。成果をまったく述べていない場合は1、不明瞭な場合は2~3で評価。

## ○Performance (3×2=6points) ×4=24points

1. They handle questions:

poorly 1 — 2 — 3 well

2. Overall outcome of the presentation. His/her subject is expressed

1 — 2 — 3

プレゼンテーションとしての完成度を総合的に評価します。Delivery に見られる英語の運用力だけでなく、多彩なプレゼンテーマを聴衆に理解させるための創意工夫が為されているかを下記の評価ポイントの総合点で評価してください。(Yesなら1点、Noなら0点)

評価ポイント:

- ・プレゼンテーションからチームとしての一体感が感じられた (Yes / No)
- ・一貫した主張を持ってプレゼンテーションが構成されていた (Yes / No)
- ・質疑応答でのコミュニケーションにおいて、質問に対する回答が明確に語られていた (Yes / No)

# 新型コロナウイルス 感染症対策について (1)

第5回 Change Maker Awards 全国大会（以下「第5回CMA全国大会」という）の開催にあたり、新型コロナウイルス感染症の感染防止のため、出場者、および来場者が遵守すべき事項、および一般社団法人 英語4技能・探究学習推進協会事務局（以下「ESIBLA事務局」という）が実施すべき事項について、以下の通りお知らせします。

## 1 新型コロナウイルス感染症拡大防止の取組について

第5回CMA全国大会開催に際し、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、東京都の発表する「新型コロナウイルス感染症対策の基本方針」を遵守するものとします。

- ・ [新型コロナウイルス感染症対策の基本方針](#)
- ・ [【9月13日から】イベントの開催制限等について](#)

「新型コロナウイルス感染症対策の基本方針」が変更された場合は迅速に対応します。

## 2 具体的な取組内容について

### (1) 感染防止策

イベント参加者の感染対策、および出演者やスタッフの感染対策については、東京都の示す「イベント開催等における必要な感染防止策」を遵守します。

- ・ [イベント開催等における必要な感染防止策](#)

### (2) 感染防止策チェックリスト

第5回CMA全国大会は「感染防止安全計画」の策定対象とならないイベントです。そのためESIBLA事務局では、「感染防止安全計画」の策定、および東京都への計画書の提出は行いませんが、代わりに「イベント開催時のチェックリスト」をWebサイトで公表し、イベント終了日から1年間保管することとします。

- ・ [イベント開催時のチェックリスト](#)
- ・ [Change Maker Awards Webサイト \(ESIBLA\)](#)

参考：「感染防止安全計画」の策定対象となるイベントは下記の通りです。

- ・ 「大声なし」で、参加人数5,000人超かつ収容率50%超のイベント
- ・ 「大声なし」で、参加人数5,000人超かつ人と人が触れ合わない程度の間隔で開催するイベント

# 新型コロナウイルス 感染症対策について (2)

## 3 補足

### (1) 大声について

第5回CMA全国大会では、プレゼンターをはじめ、全ての入場者の大声による発声を禁止します。

### (2) 人数上限・収容率について

人数上限を239人とし、収容率を50%以下とします。東京交流会議場の座席数は479席であり、席数をもって収容定員とした場合の50%以下を人数上限とします。

### (3) 人と人との間隔について

十分な人と人との間隔（最低 1メートル）を確保します。

### (4) 対象者について

本取組は下記の者を対象とします。

- ・コンテスト出場者（生徒）
- ・コンテスト出場者の帯同者（教員、家族、友人など）
- ・運営スタッフ
- ・大会役員
- ・審査員
- ・司会
- ・招待者
- ・一般観覧者
- ・上記の他、ESIBLA事務局が必要と認める者

本件に関するお問い合わせはESIBLA事務局までお願いいたします。

一般社団法人 英語4技能・探究学習推進協会（ESIBLA）事務局

TEL：03-4405-3630

FAX：03-5432-9907

E-mail：info@esibla.or.jp

所在地：〒108-0014 東京都港区芝5丁目14-13 アセンド三田7階



- 審査結果に関わらずデータ等の返却は行いません。
- 取得した情報はコンテスト、弊協会の取り組みのみに利用します。管理については厳重を期し、不正アクセス・紛失・破壊・改ざん・漏洩等に対する予防措置及び安全措置を講じます。また、応募者の承諾なく、第三者に提供・開示いたしません。
- 提出いただいた映像、発表資料等はコンテストの結果報告、次回案内他、英語4技能と探究学習普及活動に利用させていただく場合があります。
- 学習支援プログラム利用の際には、出場者の登録情報などをプログラム提供会社と共有する場合があります。

## 一般社団法人 英語4技能・探究学習推進協会

〒108-0014

東京都港区芝5丁目14-13 アセント三田7階

TEL: 03-4405-3630

FAX: 03-5432-9907

MAIL: [info@esibla.or.jp](mailto:info@esibla.or.jp)

### Change Maker Awards

▷ <https://esibla.or.jp/change-maker-awards/>

### ESIBLA教育フォーラム

▷ <https://esibla.or.jp/esibla-forum/>

### 一般社団法人英語4技能・探究学習推進協会HP

▷ <https://esibla.or.jp/>

### 探究学習白書

▷

<https://esibla.or.jp/inquiry-based-learning-white-paper/>

お気軽にお問い合わせください。